

## 子育て費用の4割強を占める「保育・教育」費用。 子供との催し、「クリスマス」「誕生会」「ひな祭り」が3大行事。

株式会社日本能率協会総合研究所（本社：東京都港区、代表取締役：榮 武男）は、2010年7月、第1子が中学生以下の子どもを持つ母親400人を対象に、「子育て費用に関する調査」を企画し、子どもにかかる毎月の費用や親兄弟に負担してもらう費用などの実態調査を実施しました。調査結果から、子育て費用に占める「保育・教育費」の占める割合が圧倒的に高いこと等がわかりました。

子育てにかかる費用(月額)の平均は約5.2万円。  
内訳で最も大きいのは「保育・教育」費用、次いで「食費」。

- 毎月の子育て費用は、平均で約52,000円。
- その内訳で最も大きいのは「保育・教育」費用の4割強、次いで食費の約2割。
- 第1子世代別では第1子が「4～6歳(未就学児)」世帯で「保育・教育」費用の割合が約半分を占める結果となっている。

祖父母等肉親からの援助がある世帯は全体の7割弱。  
援助を受けている人の援助額(年額)の平均は約4.4万円。

- 兄弟や親(\*こどもからみた祖父母)から買ってもらうもの、払ってもらうものがある世帯は全体の7割弱。
- 具体的に買ってもらうもの、払ってもらうものとしては、最も多いのが「衣類・靴」、次いで「おもちゃ」、「本」、「お小遣いの順となっている。

子供の行事、実施率上位は「クリスマス」「誕生会」「ひな祭り」の順。  
費用をかけるのは「写真館の撮影」「七五三」「入園・入学式」の順。

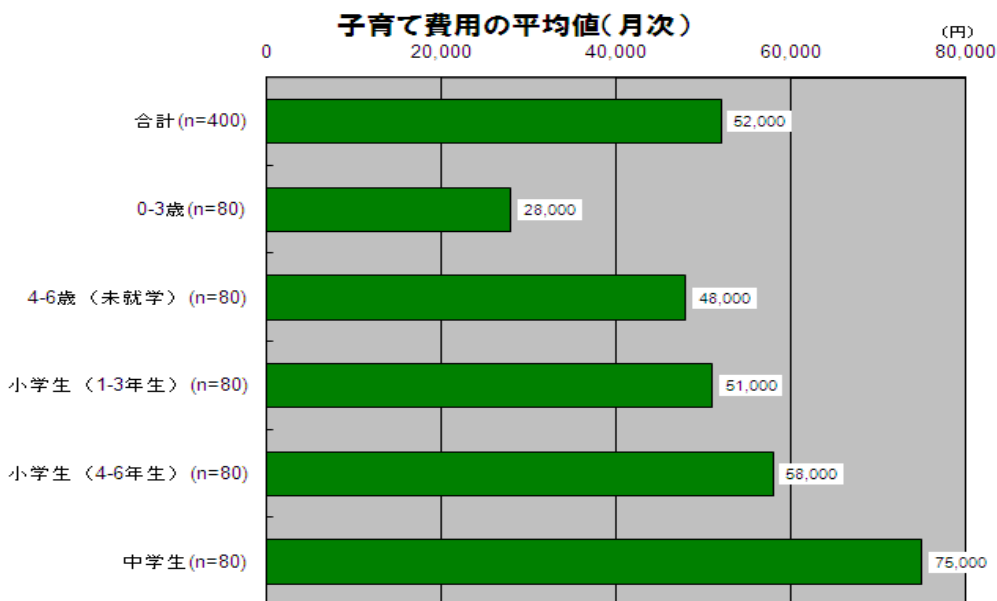
- 年間行事別の実施率をみると、実施率が最も高いのは「クリスマス」で、次いで「誕生会」「ひな祭り」の順となっている。
- 一方、行事を実施した世帯における、行事にかかった費用(平均)についてみると、最も高いのは「写真館での撮影」で次いで「七五三」、「入園式・入学式」の順となっている。

【報道関係お問い合わせ先】

広報事務局；株式会社日本能率協会総合研究所 情報企画部 池田、松川  
電話：03-6202-1287 FAX：03-6202-1294 E-mail：[info@jmar.biz](mailto:info@jmar.biz)

● **子育てにかかる費用、月額平均は約 5.2 万円。第 1 子が中学生の世帯では平均で約 7.5 万円。**

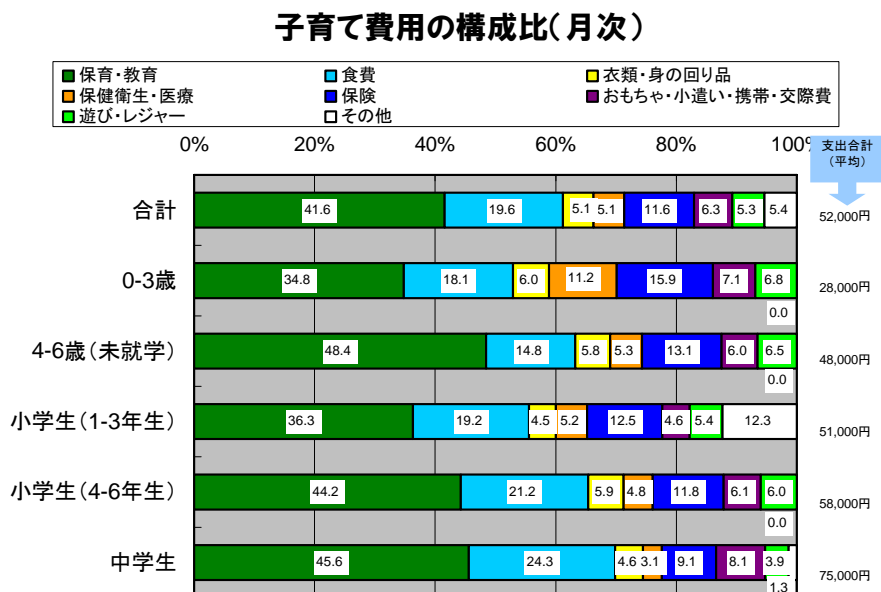
子育てにかかる費用の月額、全体平均で約 52,000 円。第 1 子の世代別に見ると、第 1 子が乳児の世帯では約 28,000 円、一方、第 1 子が中学生の世帯では約 75,000 円と年齢が上がるにつれて費用は増加する傾向となっている。



● **子育てにかかる費用内訳、最も大きいのは「保育・教育」関連費用の 4 割強。特に第 1 子が 4~6 歳 (未就学) の世帯では約半分を占めるに至っている。**

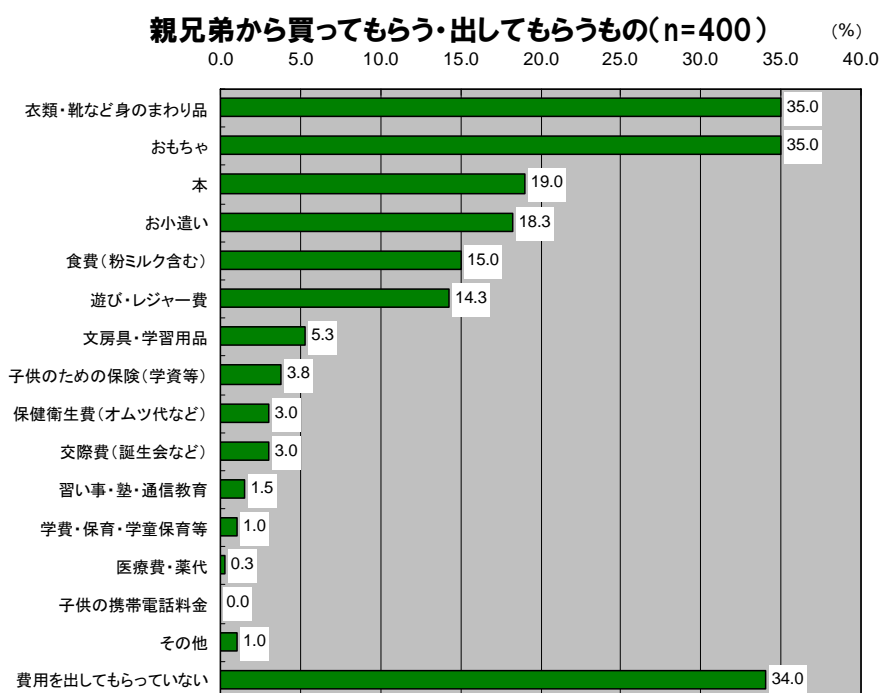
子育てにかかる費用の内訳をみると、最も大きいのは「保育・教育費」で約 42%、次いで「食費」約 20%の順となっている。

第 1 子世代別にみると、「保育・教育費」の割合が最も高いのは、第 1 子が 4~6 歳 (未就学児) 世帯で、子育て費用全体の実に約 48%を占めるに至っている。



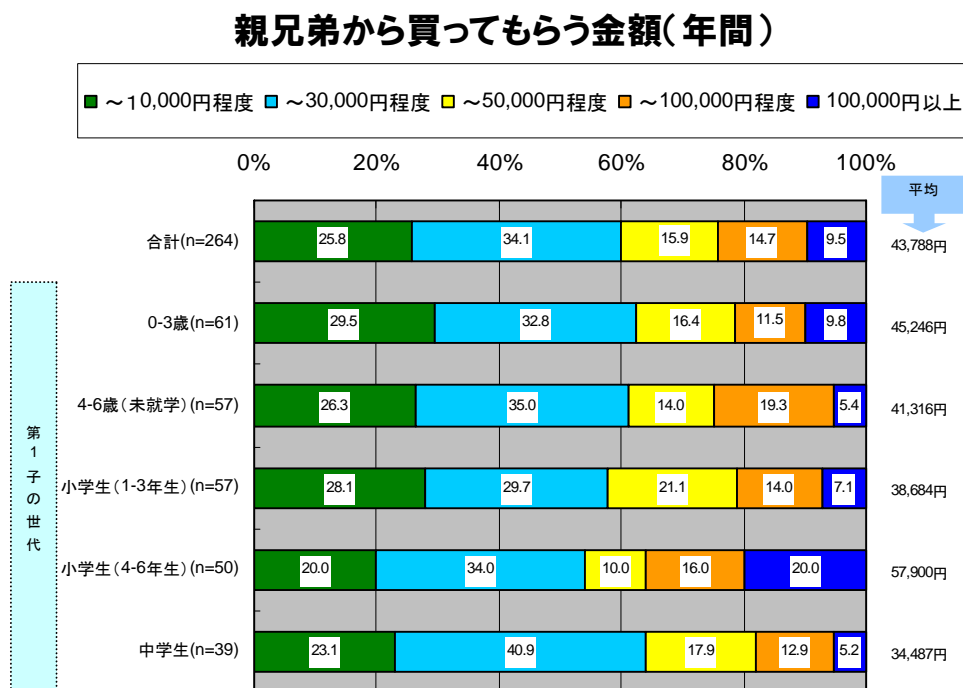
● 祖父母等に子育て関連費用を出してもらっている世帯は全体の7割弱。

子育て費用を兄弟や父母（\*こどもからみた祖父母）に「出してもらっている」世帯は約66%と全体の3分の2の世帯は何らかの援助を受けている。援助を受けた費目として最も大きいのは、「衣類・靴などの身のまわり品」「おもちゃ」で全体の35%、次いで「本」19%、「お小遣い」約18%の順となっている。



● 費用を出してもらっている世帯の援助額（年間）は平均で約4.4万円。

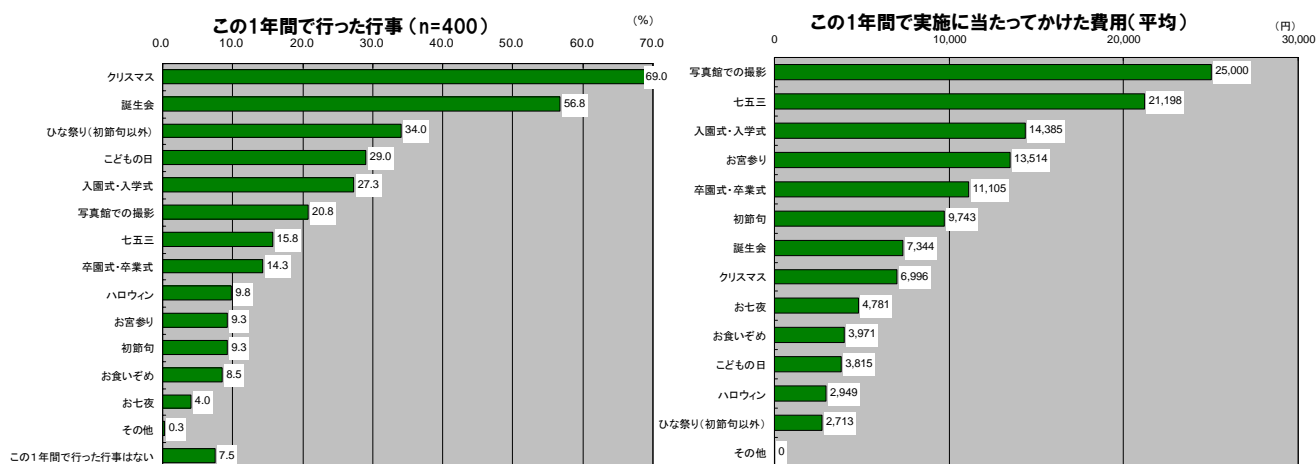
費用を「出してもらっている」世帯のうち、買ってもらっているものは「衣類・靴」「おもちゃ」が共に35.0%と高く、次いで「本」「お小遣い」「食費」「レジャー費」と続く。



- 子どものための行事、実施率が高いのは「クリスマス」「誕生会」「ひな祭り」の順。
- 行事実施世帯の行事ごとの支出額、多いのは「写真館の撮影」「七五三」「入園・入学式」の順。

年間行事別の実施率をみると、実施率が最も高いのは「クリスマス」で69%、次いで「誕生会」約57%、「ひな祭り」34%の順となっている。

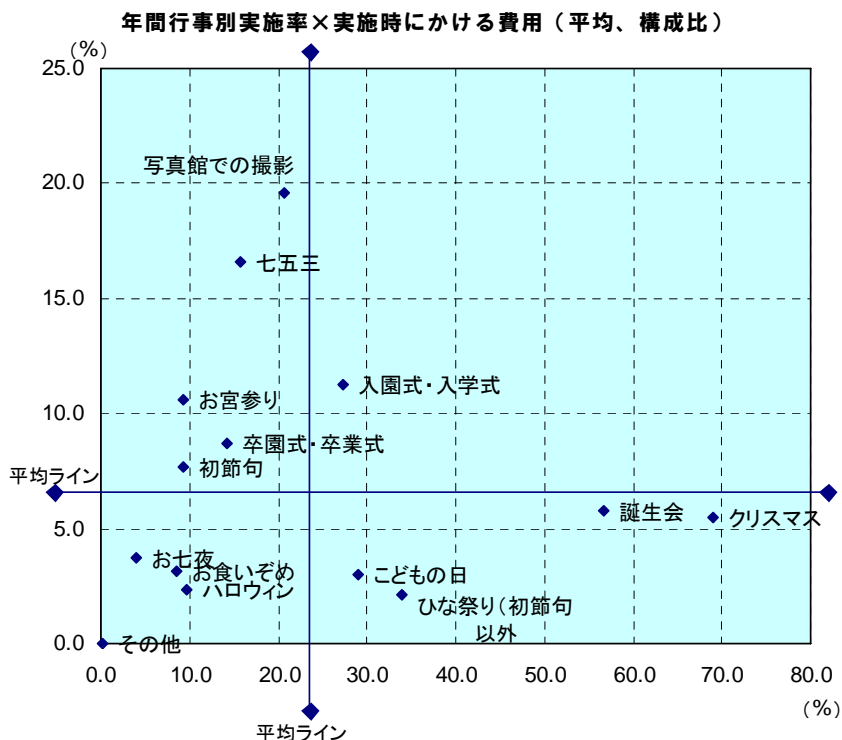
一方、行事を実施した世帯における、行事にかかった費用（平均）についてみると、最も高いのは「写真館での撮影」で2.5万円、次いで「七五三」約2.2万円、「入園式・入学式」1.4万円の順となっている。



● 子どものための行事、実施率の高低とかける費用の大小で2極化の傾向

横軸に実施率、縦軸に実施時にかかる費用（平均）の構成比を取って単純にマッピングすると、「実施率は高く実施時にかかる費用は少ない」行事と「実施率は高くないがかける費用が多い」行事に2極化される傾向が明らかとなった。

※今回調査対象とした世帯によっては該当しない行事もあるために、あくまでも単純比較結果となります。



●調査概要

調査タイトル	「子育てに関するアンケート」
調査内容	① 子どもの医療証発行有無 ② 子ども手当申請状況 ③ 毎月の子育てにかかる費用（食費／学費・保険・学童保育等／習い事・塾・通信教育／保険衛生費／医療費・薬代／子どものための保険／子どもの携帯電話料金／お小遣い／衣類・靴など身のまわり品／おもちゃ／本／文房具・学習用品／遊び・レジャー費／交際費／その他）合計 ④ 親や兄弟から子どものために費用を出してもらったものと年額 ⑤ この1年で行った行事と行事の費用（支出した額／親兄弟が負担した額） ⑥ 属性（年齢／職業／子どもの人数・学齢／家族構成／居住地／世帯年収／暮らし向き）
サンプル属性	第1子が中学生以下の子どもを持つ母親
有効回答	第1子が乳児（0-3歳）の母親：80人 第1子が幼児（4-6歳）の母親：80人 第1子が小学校低学年の母親：80人 第1子が小学校高学年の母親：80人 第1子が中学生の母親：80人                      合計：400人
実施時期	2010年7月5日～13日
調査方法	日本能率協会総合研究所所有のモニター調査システムを利用したインターネットリサーチ

当調査の集計結果表のご購入も可能です。（1部10,000円）

【本調査についてのお問い合わせ】

株式会社日本能率協会総合研究所 情報企画部                      担当：池田 久美子  
 〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 2階  
 電話：03-6202-1287 FAX：03-6202-1294 E-mail：info@jmar.biz

【日本能率協会総合研究所について】

日本能率協会総合研究所は、経営革新の推進団体である社団法人日本能率協会のシンクタンク部門が独立し、1984年に設立されました。およそ190万人の良質なモニターを組織化しており、「インターネット調査」、「FAX調査」等の定量調査、「グループ・インタビュー」、「パーソナル・インタビュー」等の定性調査のいずれにも対応可能です。また、一般生活者だけではなく、慢性疾患患者／予備軍や医療従事者、ビジネスマンなど、出現率が低く調査対象とすることが難しいモニターを事前にパネル化しており、低コストかつスピーディーに調査を実施することができます。

●日本能率協会総合研究所 URL: <http://www.jmar.biz/>

本件引用の際は、お手数ですが、上記あてに掲載紙をご送付ください。